

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「Society5.0」の社会を生きていく市民としての力を備えた「おとな」を育てる学校

◇「おとな」=自由な精神〈Liberty / Liberality *〉をもち、広く深い教養を備え、自律的に学び続ける人

(* Liberty=自己決定の主体となること / Liberality=我執にとらわれないこと)

◇学習活動、部活動、自治活動を三本柱として充実させ、すべての教育活動を通して4つの力(4C)を身につける

かんがえる力(Consider) つながる力(Communicate) つくりだす力(Create) かえていく力(Change)

2 中期的目標

1. 学力・学習力の向上と進路実現支援

(1) 学習マネジメント力の育成

生徒が学習における「R-PDCA サイクル」を通して、自己の学習の進め方を自律的に改善していけるよう支援する。

[R (Research) 診断 → P (Plan) 計画 → D (Do) 実施 → C (Check) 評価 → A (Action) 改善の5つの段階を循環させるサイクル]

(ア) 生徒が継続的にリフレクションを行い、教員が適切にフィードバックできるシステムを整える。

(イ) ICT 機器を活用し、生徒が自主的・計画的に学習をすすめていける環境づくりをすすめる。

* [学校評価に関する調査] 生徒「学習習慣を定着させる指導をしている」令和5年度には指標を9.0程度まで上げる。

(H30:6.7/R1:6.7/R2:8.7)

指標=(SA×2+A×1+D×(-1)+SD×(-2))/10 [SA:あてはまる/A:どちらかといえばあてはまる/D:どちらかといえばあてはまらない/SD:あてはまらない]

(2) 学ぶ意欲を高める授業・探究活動の充実

主体的・対話的な授業づくりを全教員で進め、「総合的な探究の時間」の充実とともに、各科目においても探究的な学びを生み出す授業を工夫し、深い理解とさらなる学びの意欲につなげる。

(ア) 生徒の「ふりかえり」、授業アンケート結果、教員相互の授業見学や授業研究等、生徒の学習効果についての検証ができるカリキュラム・マネジメント体制を整える。

(イ) 「総合的な探究の時間」を、生徒の教科での学びを横断的に関連づけ、学びへの意欲をさらに高めていく学習へと発展させる。

* [学校評価に関する調査] 生徒「学ぶ意欲を引き出す授業をしている」令和5年度には指標を8.0程度まで上げる。(H30:6.8/R1:6.0/R2:7.2)

(3) 「人生100年時代」を生きる生徒の進路実現支援

多くの生徒が志望する大学受験指導はもとより、受験のその先にあるものを見定め、大学や社会でさらに成長していく生徒を育成する。

(ア) 本校卒業生をはじめ、外部の講師や職業人と交流し、変化の激しい社会を生きる自己のあり方を考える機会を1年次からもうけ、生徒のキャリア意識を高めていくための支援を行う。

(イ) 生徒の「受験力」を向上させるための系統的な計画のもと、教員のスキルアップを図り、生徒が目的意識をもって主体的に取り組んでいくための支援体制や環境整備を進める。

* [学校評価に関する調査] 生徒「進路実現に向けて適切に指導している」令和5年度には指標を12.0程度まで上げる。

(H30:10.7/R1:10.1/R2:11.6)

* 令和5年度には国公立大学への進学を希望(3年次4月時点)した生徒の現役合格率40%以上をめざす。(H30:29.2%/R1:23.8%/R2:35.9%)

2. 主体的行動力の育成

(1) 自治力、活動力の強化

社会を生きる市民としての力を備えた人を育成するために、様々な教育活動の場面で、生徒が自ら考え、他者とともに行動し、その成果と課題を検証する機会を設ける。

(ア) 体育祭、文化祭、HR合宿、スポーツ大会、吉月祭等の生徒主体の取組みはもとより、学校生活の様々な場面での生徒の参画意識を高めるために、自治会活動や委員会活動等のさらなる活性化を図る。

(イ) 生徒の約9割が加入する部活動を本校における生徒育成の重要な柱と位置づけ、部活動のあり方を検討し、全教員による指導体制を整えるとともに、外部人材の積極的活用もすすめる。

* [学校評価に関する調査] 生徒「生徒の自主性を重んじている」令和5年度には指標12.0程度まで上げる。(H30:11.3/R1:10.8/R2:11.8)

(2) 家庭・地域・社会との連携による生きる力の育成

生徒がグローバル・マインドをもって主体的に社会に参画できる資質・能力を育成するために、家庭との連携を深め、地域・社会の組織や人々との関わりから学ぶ機会を積極的に設ける。

(ア) 家庭との日常的な意思疎通をきめ細かく行い、学校と家庭とが協力して生徒を育ていける信頼関係を築く。

(イ) 「総合的な探究の時間」をはじめ、様々な取組みにおいて、地域・社会の組織や人々と関わる機会を設ける。オーストラリアの学校との

相互交流についても、生徒の語学力の向上とグローバル・マインドの育成を期する取組みとしてさらに発展させていく。

* [学校評価に関する調査] 保護者「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」令和5年度には指標 11.0 程度まで上げる。
(H30:8.9/R1:7.6/R2:9.6)

* [学校評価に関する調査] 生徒「大学や中学校、地域の方たち、外国の方たちと交流する機会を設けている」令和5年度には指標 11.0 程度まで上げる。(H30:10.4/R1:6.8/R2:5.4)

(3) 「人権教育の4側面」をふまえた人権教育の実現

「人権のための教育（目標）」、「人権としての教育（機会）」、「人権を通じての教育（環境）」、「人権についての教育（内容）」の4つの側面をふまえた人権教育を実施する。

(ア) 「人権についての教育」として、3年間の系統的な人権学習プランを実施し、生徒が様々な人権課題を自身の課題と重ね合わせて考え、豊かな人権感覚を身につけられるようにする。

(イ) 一人ひとりが大切にされ、誰もが安心して過ごせる学校づくりへの意識を学校全体として高めていく。また、スクール・カウンセラー等の専門職の方と連携した教育相談体制を整備するとともに、教職員は生徒の小さな変化を見逃さず、丁寧に向き合い、組織的な生徒支援ができるようにする。

* [学校評価に関する調査] 生徒「豊かな心や人の生き方、人権などについて考える機会を設けている」令和5年度まで指標 13.0～14.0 程度を維持する。(H30:10.9/R1:11.3/R2:14.0)

* [学校評価に関する調査] 生徒「悩みなどがあるときに相談できるようになっている」令和5年度まで指標 12.0 程度を維持する。
(H30:10.6/R1:10.9/R2:12.1)

3. 学校組織力の向上

(1) 学習する学校組織づくり

全ての教職員が、教職に携わる者としての矜持を持ち、「めざす学校像」をふまえて、よりよい教育活動を実践していけるよう、常に学び、支え合う学校組織をつくっていく。

(ア) すべての業務について、従来の枠にとらわれることなく、的確な状況把握に基づき、効果的・効率的に進めていけるよう改善していく。

(イ) 変化の激しいこれからの社会に対応し、よりよく生きていくことのできる生徒を育む学校づくりをすすめるために、様々な機会をとらえて研修の機会を設ける。

* [学校評価に関する調査] 教職員「各分掌や学年間の連携・協力が円滑に行われている」令和5年度には指標 5.0 程度に上げる。
(H30:-0.8/R1:2.4/R2:0.6)

(2) 職場環境の改善

教職員の意思疎通を促進し、教員相互の理解を深めるとともに、業務効率を高めていくために、職員室等学校施設や設備の改善をすすめる。

(ア) 教育活動における問題意識や悩みなどを教職員間で気軽に話し合える場を設け、「開かれた同僚性」に満ちた職場づくりをすすめる。

(イ) ICT 機器を活用できる環境を整備し、業務の効率化を促進する。

* [学校評価に関する調査] 教職員「教育活動における問題意識や悩みについて教職員間で話し合える職場環境である」令和5年度には指標 5.0 程度に上げる。(H30:2.4/R1:1.9/R2:0.2)

(3) 危機管理体制の整備

すべての生徒が安心して安全に学校生活を送ることができるよう、施設・設備・制度の改善をすすめるとともに、危機管理体制をさらに充実させる。

(ア) 生徒個々の状況を踏まえ、合理的な配慮ができる施設・設備改善を行う。

(イ) 近隣の地域と連携した危機管理体制を整える。

* [学校評価に関する調査] 教職員「災害や事件に対して迅速かつ適切な対応ができるような校内体制を整えている」令和5年度には指標 9.0 程度に上げる。(H30:8.7/R1:7.8/R2:8.4)

* [学校評価に関する調査] 生徒「災害や事件が起こった場合、どう行動したらよいかを生徒に周知している」令和5年度まで指標 11.0～12.0 程度を維持する。(H30:10.9/R1:11.3/R2:8.0)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒/課題としてきた「学ぶ意欲を引き出している」は指標 7.6 (昨年 7.2) とやや上向きとなったが、まだ低い水準なので引き続き本校の課題として取り組む。「人権について考える機会」は指標 15.5 (昨年 14.0) とさらに上回った。たくさんの人を招いての取組みの成果なので継続して進めていく。</p> <p>保護者/「PTA 活動が活発」の指標 7.6 (昨年 5.9) と若干改善が見られた。「必要な情報の提供」は指標 9.6 (昨年 8.9) となり、メールを活用した日常的な情報提供が浸透した成果が現れている。</p> <p>教職員/「教員間で授業方法や評価のあり方等について検討している」が指標 2.2 (昨年 3.0) と一昨年に続き下降している。新カリキュラム・観点別学習評価の実施にあたり、教科会議等の時間確保等、教員同士の連携がとりやすい条件を整えていく必要がある。</p>	<p>第1回(6月18日)書面開催</p> <p>・令和2年度学校評価について、向上した項目についてもその要因を分析して、さらなる向上に努めてほしい。・総合的な探究の時間について、実施の効果が現れている。まとめ方としては、教員の講評があればより理解しやすい。・全体として、全般的に生徒・保護者の満足度が高く、日々熱心な教育活動が営まれていることがうかがえる。</p> <p>第2回(11月11日)</p> <p>・大きな教育効果がある学校行事を、感染防止に努めながら、できる限り多く実施できることを願う。・「清水谷キャリア教育」について、3年間を見通して、どのような力をつけていくのかが非常にわかりやすい。「総合的な探究」の活動について、3年生が下級生に向けて発表を行ったという「しかけ」がよい。</p> <p>第3回(2月19日)</p> <p>・学校教育自己診断結果について、・「入学してよかった」という意見は、生徒・保護者</p>

府立清水谷高等学校

ともに高く、清水谷ならではの だと思ふ。 ・「学ぶ意欲を引き出す授業」の生徒評価が横ばいであるのを打破してほしい。

・令和3年学校経営計画及び学校評価について、人権教育において生徒自身が「人権を考えるよい機会になった」と感じていることがわかる。

・令和4年度学校教育計画及び学校評価について、さらなる発展がうかがえる内容である。外部専門家との連携についての考えはともいいと思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2年度値]	自己評価
1. 学力・学習力の向上と進路実現支援	<p>(1) 学習マネジメント力の育成</p> <p>(2) 学ぶ意欲を高める授業・探究活動の充実</p> <p>(3) 「人生100年時代」を生きる生徒の進路実現支援</p>	<p>(ア) 昨年度の「ふりかえり」や年度当初に実施する業者テストの結果を踏まえ、希望進路を明確にしながら自己の学習計画を立て、学期ごとにふりかえりを行う。</p> <p>(イ) すべての教員が簡単にオンライン教材を作成できる環境整備を行う。</p> <p>(ア) 観点別学習評価の実施に合わせ、単元ごとの達成状況を生徒が自己評価したデータを学期ごとに集約し、各教科が学習効果を検証し、次学期の計画を立てるシステムを確立する。</p> <p>(イ) 「探究の時間委員会」を新たに設け、本校の学びの軸となる3年間を通した学習プランをつくる。</p> <p>(ア) 生徒が主体的に考え、行動するキャリア教育としての進路支援を行う。</p> <p>(イ) 本校で行う全ての教育活動を関連付けた系統だった進路指導体制を再構築する。</p>	<p>(ア) 生徒アンケート『「ふりかえり」を自己の学習力向上に活かすことができた』肯定評価7割超。</p> <p>(イ) 教員アンケート「すぐに活用できるオンライン教材が準備できている」肯定評価6割超。</p> <p>(ア) 教職員「教員間で授業方法や評価のあり方等について検討している」指標4.0程度 [3.0]</p> <p>(イ) 生徒「学ぶ意欲を引き出す授業をしている」指標7.6程度 [7.2]</p> <p>(ア) 生徒アンケート「社会人講演会の取組を通して、自己のあり方、生き方を考えることができた」肯定評価7割超。</p> <p>(イ) 生徒「進路実現に向けて適切に指導している」指標12.0程度 [11.6]</p>	<p>(ア) 学期末に実施する「ふりかえり」が定着し、自己の学習をマネジメントする意識が向上している。生徒アンケート肯定評価83%(○)</p> <p>(イ) 全教員がオンライン授業を実施できる体制を整えた。(全教員が実施できることを確認した)(○)</p> <p>(ア) 生徒の自己評価データに基づく学習効果検証システムを整えた。教職員「教員間で授業方法や評価のあり方等について検討している」指標2.2(△) *授業方法や評価について検討する場や機会を確保しにくい教科があった。</p> <p>(イ) 新たな探究の取組みを各学年で試行し3年間の学習プランを作成した。生徒「学ぶ意欲を引き出す授業をしている」指標7.6(○)</p> <p>(ア) 1、2年生が進路講演会を実施。生徒アンケート肯定評価92%(○)</p> <p>(イ) 全ての教育活動を、育てる生徒像に基づいて再構成し、本校キャリア教育の道筋を定めた。生徒「進路実現に向けて適切に指導している」指標11.8(△) *進路に関する情報の提供、保護者を含めた懇談の機会をさらに充実させていかねばならない。</p>
2. 主体的行動力の育成	<p>(1) 自治力、活動力の強化</p> <p>(2) 地域・社会との連携による生きる力の育成</p>	<p>(ア) 自治活動、部活動を通して、主体的に考え行動し、「4つの力」(めざす学校像)を身につけていくよう支援する。</p> <p>(イ) 本校がめざす「おとな」を育てるための「生徒指導」のあり方を、生徒・保護者も含めてともに考えていく。</p> <p>(ア) 保護者校行事への参加が難しい現状においても、本校教育活動への保護者の理解を促進するための様々な手段を講じる。</p> <p>(イ) 「探究の時間」で、社会的な課題や地域の課題に目を向けた取組みを主体的に進めるプログラムを実施する。国際交流においてはリモート交流等の手立てを考える</p>	<p>(ア) 生徒「生徒の自主性を重んじている」指標12.5程度 [11.8]</p> <p>(イ) 生徒「納得できる生徒指導をしている」指標12.0程度 [11.6]</p> <p>(ア) 保護者「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」指標10.5程度 [9.6]</p> <p>(イ) 生徒「大学や中学校、地域の方たち、外国の方たちと交流する機会を設けている」指標6.5 [5.4]</p>	<p>(ア) 自治会執行部を中心とした生徒の主体的活動が促進された。生徒「生徒の自主性を重んじている」指標11.0(△) *より良い高校生活を求めて、自治会が中心となって全生徒の思いや考えを共有し、検討する取組みを行った。様々な疑問や不満も意識化されたが、生徒の自治力を高めていく取組みとしては進んでいるものと考えられる。</p> <p>(イ) 生徒の「自分たちの学校は自分たちが作っていく」という意識が高まってきた。生徒「納得できる生徒指導をしている」指標9.2(△) *生徒指導にいても教員は生徒の思いを受け止め、ともに考えていく姿勢をさらに徹底していかなければならない。</p> <p>(ア) 保護者向けメールを活用して日常的な情報を発信している。保護者「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」指標8.9(△) *感染防止のため保護者に来校いただく機会が少なくなったので、よりきめ細かな意思疎通が必要だった。3学期からメールによる情報発信回数をさらに増やした。</p> <p>(イ) 「探究の時間」において、地域・社会に目を向けた取組みが実施された。国際交流については、交流相手校の事情により、リモート交流等の取組みの検討は次年度への持ち越しとなった。生徒「大学や中学校、地域の方たち、外国の方たちと交流する機会を</p>

府立清水谷高等学校

	(3) 「人権教育の4側面」をふまえた人権教育の実現	(ア) すべての生徒が当事者意識を持ち、自己のあり方を考える人権学習を行う。 (イ) メンタルケアを必要とする生徒の増加に対応できる体制を整える。	(ア) 生徒「豊かな心や人の生き方、人権などについて考える機会を設けている」指標 14.5 程度 [14.0] (イ) 教育相談担当者の打合せを隔週で定例開催。	設けている」指標 2.8 (一) (ア) 様々な立場にある講師との交流機会を増やし、自分事として人権課題を考える機会を多く持つことができた。生徒「豊かな心や人の生き方、人権などについて考える機会を設けている」指標 15.5 (〇) (イ) 教育相談担当者の打合せを隔週に開催し、ケアを要する生徒の支援方針を丁寧に検討し、生徒への組織的な対応に活かすことができた。(〇)
3. 学校組織力の向上	(1) 学習する学校組織づくり	(ア) 分掌長、学年主任が常に学校ビジョンを意識し、個々のマネジメント力を高め、各部署における協働体制をつくる。 (イ) 不祥事を防止し、様々な課題に対応できる組織力の強化に向け、教員同士が学び合い、助け合える関係をつくるとともに、業務のあり方を常に考え直していく。	(ア) 運営委員メンバー対象のマネジメント学習会を実施。 (イ) 教職員「各分掌や学年間の連携・協力が円滑に行われている」指標 2.5 [0.6]	(ア) 月2回ペースで学校マネジメントに関する協議を継続して実施し、各部署の枠を超えた学校づくりの意識を醸成した。(〇) (イ) 連絡板の増設、メールの活用等、教職員間の連携を促進する取組みを行った。運営委員会を中心に業務量の削減をめざした検討を継続的に実施した。教職員「各分掌や学年間の連携・協力が円滑に行われている」指標-0.5 (△) *分掌長・学年主任間の連携は促進したが、それが分掌、学年の動きに反映していくための場や機会が不十分であった。
	(2) 職場環境の改善	(ア) あらゆるハラスメントを許さず、教職員が安心して自己の能力を活かし、誇りをもって働ける職場づくりに向け、学習会、懇話会の開催、教職員が話しやすい空間づくり(談話スペースの改修)を行う。 (イ) 教員一人当たり1台のタブレットPCを効果的に活用できる環境整備を行うとともに、活用方法についての研修会等を開催する。	(ア) 教職員「教育活動における問題意識や悩みについて教職員間で話し合える職場環境である」指標 2.5 [0.2] (イ) タブレットPCの活用方法についての研修会、授業見学会、研究会の開催。生徒「教材や教え方に工夫をしている」指標 9.5 程度 [8.7] 教員「教材や教え方について工夫・改善が図られている」指標 12.0 程度 [11.2]	(ア) ハラスメント防止を啓発する機会を増やすとともに、職員研修を実施した。談話スペース、情報共有スペース等、教職員が話しやすい環境づくりを行った。教職員「教育活動における問題意識や悩みについて教職員間で話し合える職場環境である」指標-0.3 (△) *空間的な環境づくりを進めたが、その活用についてはまだ不十分であった。 (イ) PCを活用できる環境を整え、全教職員が参加できる研修会も開催した。生徒「教材や教え方に工夫をしている」指標 8.4 教員「教材や教え方について工夫・改善が図られている」指標 11.0 (△) *PCの活用については大きく進んだが、授業の工夫・改善等についての教員相互の連携が不足している。教科会議のあり方等を含め、対策を講じていく必要がある。
	(3) 危機管理体制の整備	(ア) 生徒が安全に安心して活動できるよう学習環境を維持・改善する。 (イ) 予期せぬ災害等に対しても、組織的に対応できるよう、防災教育の取組みを継続的に行う。	(ア) 生徒「施設・設備を整えている」指標 10~11 を維持 [10.2] (イ) 生徒「災害や事件が起こった場合、どう行動したらよいかを生徒に周知している」指標 10.0 [8.0] 教職員「災害や事件に対して迅速かつ適切な対処ができるような校内体制を整えている」指標 8.8 程度 [8.4]	(ア) 保護者と連携し、防犯カメラを増設、警備体制を強化した。生徒「施設・設備を整えている」指標 8.6 (△) *生徒用トイレに関する不満が多い。今後も実現可能な改善方法を検討していく。 (イ) 避難経路の確認、非常時の連絡方法等について生徒に周知した。生徒「災害や事件が起こった場合、どう行動したらよいかを生徒に周知している」指標 7.2 教職員「災害や事件に対して迅速かつ適切な対処ができるような校内体制を整えている」指標 5.1 (△) *生徒への周知が不足していた。防災・防犯に対する意識を学校全体として高めていく必要がある。